



江戸時代の建築が残る

蚊帳や畳表を商っていた西川家の店舗兼住居跡。今は見学施設になっています。宝永3（1706）年築で、国の重要文化財に指定されています。



こっちが兄の家

屋根の高さが違う!

旧西川家（写真右）の目の前には、弟の屋敷（写真左）があります。二棟を見比べると、兄の家のほうが屋根が高くなっています。

近江八幡



主人と奉公人のスペース

商人屋敷の多くには住み込みの奉公人がいました。旧西川家では、右側の畳敷きのほうに主人、左側の板敷きのほうに奉公人の寝床がありました。

荷車用の大きな入口

荷物をくり付けた車を屋敷に入れるために、旧西川家には跳（は）ね上げ戸という大きな戸があります。天井の滑車とロープを使い、戸を内側に持ち上げ開きます。



水路の水を引き込む

各家々では街中を流れる水路から水を引き込み、「川戸」に貯めていました。洗い場や防火水槽として使います。

泥棒対策

光を取り込む工夫

雨戸は普通、横方向にスライドするしか動かせませんが、外村繁邸の「まわし戸」は直角に動かせました。雨戸が日を遮らないようにするための仕組みです。



蔵への入口は母屋に

外村繁邸をはじめ、五個荘の商人屋敷は、用心のため蔵の入口を外ではなく、母屋の中に設けていました。



広くて立派な庭

もともとは農村だったため、一軒あたりの土地が広く、立派な庭を備えた屋敷が多くあります。



売り手よし
買い手よし
世間よし



裏に収納スペース

床の間が狭い!

外村繁邸では床の間の幅が狭くなっていますが、その分を裏にある部屋の収納に充てています。合理性を重視していたことが窺えます。



農家っぽい屋根

もともとは農民だった五個荘商人。街の中には農家に見られるような茅葺き屋根の建物もあります。



取り外し可能な柱

外村繁邸など五個荘の屋敷では、荷物を二階に運びやすくするため、取り外しできる柱があります。



今も蔵に残る家財

近江商人はケチと言われることがありますが、使うべきところには惜しまずお金を使い、家財などは良いものを長く大切に使いました。

おまけ

あちこちで見られるもの

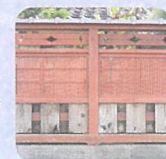
景観を明るくする 堀越しの松

道路に面する庭に、堀越しでも見える背の高い松「見越し松」を植え、景観美化に努めました。



板塀・柱・壁などに ベンガラが使われた

防水・防虫効果があつた赤色顔料のベンガラは、屋敷のさまざまなところに使われました。



全国でも超レア!



旧西川家に残る 貴重な三階蔵

江戸時代中期以降、幕府から出された節約令により三階建ての蔵が禁止され、その前に建てられた蔵だけが残りました。今や全国でも数えるほどに。

接待部屋は豪華

歴史民俗資料館（旧森五郎兵衛控宅）には、壁をベンガラで赤く塗り、ふすまに銀紙を貼った豪華な部屋がありますが、これは得意先をもてなす接待部屋でした。



馬や牛をつなぐ輪

町並み保存地区にある屋敷には、入口付近に荷物運搬用の馬や牛をつなぐ輪がついています。



古着をリサイクル

古着は捨てるのではなく、美しいパッチワークに加工して、よだれかけなどとして再利用していました。



商家が図書館や学校に!!

八幡商人「伴庄右衛門」の本宅として江戸後期に建てられた3階建て住居は、13年かけて建てられました。外観から豪華さが解らない造りになっていますが、土間の吹き抜けや大広間は圧巻!



うちね広告は 近江商人が始めた!?

商人たちが得意先に配っていたうちねには「日野町」の文字。近江商人たちはうちねで店のPRをしていました。



日野

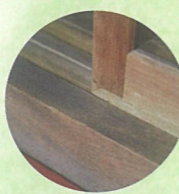
障子風のガラス戸

日野の職人によって建てられた旧山中兵右衛門邸には、カキの殻を混ぜた障子紙風のガラスを戸にはめこむなど、独自の趣向が見られます。



敷居を傷つけない戸

引き戸は敷居と擦れない処理がされていたり、天井の竿縁は面取りされているなど、旧山中兵右衛門邸は、あちこちに細かな職人技が見られます。



モダンな洋間も!

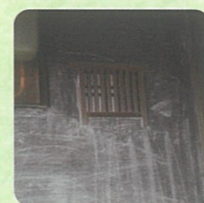
「近江日野商人ふるさと館」として公開されている旧山中正吉邸は、純和風な外観とは裏腹に超モダンな洋間があります。



丁稚さん（奉公人）でも買える
安価なおみやげだったから
丁稚ようかん。

誰が来たか確認

屋敷の中から来訪者を確認できる、小さなぞき窓が付いている家も。



お客さんかな?

全国展開した商品

日野商人は漆器を売り歩きました。なかでも日野椀は、全国的に庶民使いの漆器として広まりました。



下駄をわざと置く

用心下駄と呼ばれるこの男物の下駄は、主人の留守を悟られないための工夫でした。



大小2つの戸

昼間は戸を開けて店を開きますが、夜は用心のため戸を開け、小さくぐり戸から出入りしていました。



よいしょ

日野の一番の特徴は 棧敷窓とつし二階

日野祭を見るための「棧敷窓」は、日野独特のしつらえ。「つし二階（※）」を有する、屋根が二重になった屋敷もよく見られます。（つし=屋根裏の物置場）

※近江八幡では「ツシ二階」



近江商人って

近江（現在の滋賀県）に本宅・本店を置き、他国で

- ① 江戸～明治時代に活躍
ふとんの西川やワコールなど、今に続く企業の創業者も多く輩出しています。近江八幡、東近江（五個荘）、日野は、特に多くの商人が活躍しました。
- ② 「質素倹約」「しまつてきばる」
贅沢をせず、しまつて（無駄なお金を使わずに）長生きすることを心掛け、商いに励みました。
- ③ 「三方よし」の精神
客の利便を考えたり社会事業に出資するなど、売り手だけでなく、買い手や世間にも利益がある商売を心掛けていました。



ごかしょう 五個荘 STYLE

五個荘商人は、もともと農民で、**農業の閑散期に行商を行ったのが始まり**。太物（麻・綿の織物）や呉服を商いました。都市部の商品を地方で売り、その足で**地方の商品を仕入れて戻る**、産物廻しを得意としました。近江商人の本宅が残る金堂地区は、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けています。



近江商人

滋賀

日野 東近江 五個荘 近江八幡

BOOK 学べる

まだある！ 近江商人のヒミツ

旅暮らしならではのファッションは？

菅笠と合羽で、雨でも安心。長時間歩くので、足元はわらじと脚絆で万全。荷物は軽くて丈夫な柳や竹で編んだ天秤棒に入るようコンパクトに。大事な手控え帳（帳簿）は、腰にぶらさげておき、いつでもすぐ取り出せるようにしていました。

近江商人の屋敷でお宝発見!!

平成20(2008)年9月、旧山中兵右衛門邸（近江日野商人館）の西蔵床下から出てきたのが、茨城県牛久で生産の牛久葡萄酒。現存最古の国産ワインは当時、東京・日本橋で購入したものといわれています。

ボーナスは？ お金の管理は？

「三ツ割銀制度」といって、利益は本家上納、内部留保のほか、店員へも分配していました。現在のボーナス制度の原型ともいわれます。「大福帳」は、現在の「総勘定元帳」にあたるものです。会計システムでも、時代を先取りしていたのです。

近江に近江商人の店はなかった!?

旅先で商売をするスタイルで各地に出店しましたが、地元はいわば「本社」的な存在。邸宅はあっても基本的に店頭販売はしていませんでした。

「学べるBOOK」では表紙デザインを竹皮にし、近江商人の心意気を包み込みました!

でっち羊羹ってどんなお菓子?

小豆を煮て砂糖で味付け、小麦粉と練り合わせたものを竹の皮で包んで蒸したお菓子。丁稚の奉公先へのお土産だった、丁稚でも購入できるくらい安価だった、職人が餡と小麦をこねる作業を「でっちる」と称したなど、名前の由来は諸説あります。

小さい子はままと道具で家事を習っていました

女性教育がすごかった!

奉公人の教育や躾、家の財産管理は主人の妻の役割でした。婚期の近づいた商家の女子が、豪商の本家へ女中奉公に出て知識を身につけてから実家に戻る、「汐踏み」という風習がありました。

あなたの近江商人度をチェック!!

- ① ワンシーズン限りの安物より、長く使える上等なものを選びがち
- ② 事業をするなら、店舗を増やしたり販売地域を拡げたい
- ③ 節約はしているが、募金・プレゼントにはお金を惜しまない
- ④ お金持ちになっても、なるべく質素な生活を心がけたい
- ⑤ 知らない土地や人と出会えることが楽しく感じるほうだ
- ⑥ おみやげならもらうのもあげるのもようかんが一番!

↓ いくつ当てはまったかな? ↓

0~1個 まだまだ! 丁稚	2~3個 もうひと息! 手代	4~5個 やるね! 番頭	6個 すごい! 主人
---------------------	----------------------	--------------------	------------------

もっと近江商人を知りたい人はコチラをチェック!



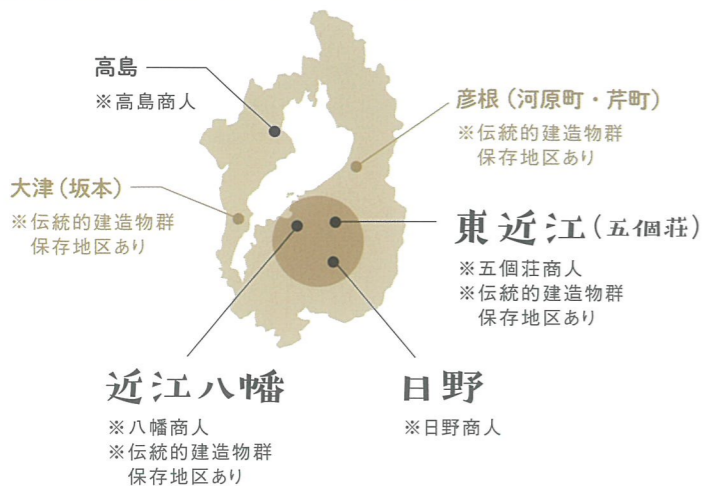
お問い合わせ

- 近江八幡観光物産協会 0748-32-7003
- 東近江市観光協会 0748-29-3920
- 日野観光協会 0748-52-6577

近江商人ゆかりの町連絡会 www.omi-syonin.com

どんな人たち?

商いをした商人達を総称して、「近江商人」と呼びます。



おうみばちまん 近江八幡 STYLE

八幡山のふもとに本宅を構えたのが八幡商人。**蚊帳や畳表、呉服**が主力商品でした。有力な商家であった西川家の7代目は、**ボーナス制度を取り入れた**ことで知られています。商人たちが活躍した頃の町並みは、伝統的建造物群保存地区として色濃く残ります。



ひの 日野 STYLE

日野商人は、**日野椀や医薬品、小間物**などの行商で発展しました。特にヒットした携帯用の薬「万病感応丸」は、ある商人が最後の一粒を落としてしまい、道中で苦しんだ経験から、転がりにくい半月形をしています。**買い手を思った商品開発**を行っていたことが分かります。